

書店関係者にお願ひするページ

ドイツ・フランス書籍の 仕入れに関する諸事情

株式会社 至成堂書店 営業部 神田 嘉明

当店は、主にドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、他にイタリア、インド等の学術洋書を専門に輸入し、それらを販売しています。ここでは、その取引において大部分を占める、ドイツ書とフランス書との仕入れに関する違いを簡単に紹介することにしましょう。

ところで、一般に、いずれの国の出版物も発注する経路自体に目立った特徴はないといっているでしょう。問題は入荷に至るまでの経路の方です。ここに各国の国柄なり気風といったものが反映されています。入荷に至るまでの何らかの支障はつきものですが、そのことが各国の特徴をあらわします。

ドイツでは、出版社や代理店が注文書籍を在庫していなければ、取寄せもしくは再版待ちの間、その注文は生き続けます。10年以上前の注文でも、今回出版・再版されたので送本してもよいかなどといった連絡が入ることがあります。ドイツの出版社や代理店は注文記録を長期にわたり保持しているわけです。

他方、フランスでは、注文の書籍が今この場になければ「在庫ナシ」として出版社が処理します。単に今現在、倉庫や目前に在庫がないというだけの理由で、自社の出版物を再版で刷っている最中でも、在庫ナシの連絡が入ることもしばしばです。つまり発注をかけるタイミングによって入荷したりしなかったりということが多々あります。ドイツと違い、フランスの出版社は注文の記録を残さないように思われます。

継続図書に関してもそうです。フランスには基本的に継続購入という考えがないのか、継続的に出版されていく書籍でも販売方法は単行本と同じ

扱いです。ですから、出版情報の中から継続図書であるものを確実に把握し、継続の意味が失われないようにそのつど発注されねばなりません。このようにしてフランス書の継続図書は、改めて「継続図書」として当店が管理することになるのです。ドイツでの継続図書は一度継続として発注するとその記録をもとにして、順次、出版される毎に自動的に送ってきます。ドイツの場合は、文字通り「継続図書」といえるでしょう。

とはいえ、ドイツの場合も問題がないわけではありません。それは出版計画が長いものや遅いものがあり、その程度が尋常ではないということです。例えば、前回の出版が10年前であったものや、哲学者シェリングの全集などは全80巻の予定にもかかわらず、30年もの間に未だ9冊程度しか出版されていない、などといったことが平然と行なわれています。

こういったものは、大学図書館や研究室レベルでの購入もさることながら個人レベルでの購入となると途方も無い時間を要することとなり、様々な問題が発生しかねません。シェリング全集は初回配本から完結するまで、およそ2世紀はかかるであろうと思われます。全巻揃う時には最初の方の巻は、一体、どうなっているのでしょうか？納入する書店はあり続けるのでしょうか？なにか不思議なおもいがします。

ドイツ、フランスはもとより、その他の国々の仕入れに際しても、その国の国柄・気風の一端を垣間見るような気がします。おそらく取引相手の人々も、我々に同じおもいを抱いているのではないのでしょうか。

かんだ よしあき

